

園長かいじゅうからの ラストメッセージ

いよいよ1年間の終わりであり、幼稚園生活の終わりの3月です。そこで拙著『園長かいじゅうからの子育てメッセージ』にちなんで、ラストメッセージとして書くことにします。

世の中にはたくさんの幼稚園があります。そして幼稚園の数だけ保育の仕方が違うといえるような状況です。そのなかから愛隣幼稚園を選んでくださった皆さんに心から感謝しています。そして、その選択が間違いでなかったと言っていただけに、私たちは一生懸命やってきました。1年前にベソをかいていた子どもたちも、今では幼稚園生活を満喫してくれるようになりました。そういう一人ひとりの姿を見て、良かったと思い、うれしく思います。そこに子どもの育ちの姿を見るからです。

身体が大きくなることも、いろいろなことをうまく出来るようになることも育ちの姿です。1年間でそういうものもたくさん見ることができました。けれどもそれ以上に喜ぶたい子どもたちの育ちの姿があります。それは、自分の思いを言葉や行動に表すこと、自分のしたいことに取り組むこと、周りのことに關心を持って自分から関わったり、自分もやってみようとする、他の人の考えを取り入れたり、自分の考えも合わせたりして、もっと広くもっと大きな楽しさを作り上げること、ナドナドのことです。それは自分に対する安心と自信の表われであり、周囲に対する安心と開かれた心の表われだからです。子どもたちの1年間を振り返って、そのような姿が宝石をつないだ輪のように思い出されてきます。そして、その姿の奥に貯えられた力こそ、その子の人生を支えることの出来る「ほんものの力」だと思うのです。

先日あるシンポジウムにでました。フロアからの質問に答えて、壇上の小学校の校長先生がなさった話がとても印象的でした。質問は「小学校にあがるために、幼稚園や保育所は子どもにどんな力をつけてあげたらいいか？」でした。校長先生はこう答えられました。「小学校の学習で子どもたちに差が出てくるのは3年生以降です。この差を生み出すものは子どもの好奇心と取り組む力です。知らないこと、新しいことに出会ったとき、興味を持って取り組むことが出来るかどうかで差が出てくるのです。幼稚園や保育所で小学校の勉強を先取りしてやっても、それは2年生までで全部使い果たします。誰もが新しい知らないことに会うのが3年生以降なのです。だから幼稚園や保育所で育てておきたいのは、小学校で役立つ知識や技術でなく、物事に興味を持って取り組む力そのものです。」そして校長先生は一言足して「この力の根底にあるものは、子どもの自己肯定感なのではないでしょうか。」と言われました。自己肯定感は自分に対する安心と自信と言い換えて間違いないでしょう。

小学校入学を目の前にしているちきゅう組のみなさん、安心しましょう。ちきゅう組の子たちはこれまでの園生活で「自分は自分でいい」をたくさん発揮し、味わってきました。2年生までは苦勞するかもしれないけれど、そこから先は貯えた力がその子を支え、伸ばしてくれるでしょう。たんぼ組とばら組のみなさん、期待して新年度を迎えましょう。一人ひとりが自分らしさを発揮して、自分から、自分で、目一杯やって楽しむ園生活を期待しましょう。その中で子どもが身体と心をフル回転で使ってくれることを願っています。そうしたら子どもたちの中に「ほんものの力」が育ち、貯えられます。